

碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
 神奈川 碩 心 会 発 行

現在 2年9月 会員数
 156名
 逗子地区 262名
 葉山地区 46名
 大船地区 (464名)

2年9月号 (218号)
 発行 者 萃 岳
 根 岸 岳
 編 集 者 岳
 中 村 愛 岳

詩吟を学んで二十年： これからもよろしく

葉山地区長 沼田義岳

この夏は近年にない猛暑で、夜は熱帯夜に見舞われ、寝苦しい日が続きましたが、ここようやく涼ぎやすくなってきました。碩心会の皆様には御健勝で何よりと思います。私も詩吟の勉強を始めて約二十年：声を張りあげているせいかわ、これといった病気もせず、仕事の鬼と云われ、未だ現役で働いております。

この度、根岸会長、先輩諸先生の推薦により、地区長という大役を仰せつかり、常任理事の仲間に入れさせていただき、身にあまる光栄に思いますが、重い責任を感じております。これからは諸先輩の指示に従い、碩心会の為に努力致す所存でございます。どうか皆様よろしく御協力の程お願い致します。

私は毎朝八畳の部屋で、駆足運動を十分位、次に逆立ちをして手足の運動をし、そのあと冷水摩擦をし、終って体中をぬぐい、これを三百六十五日行っています。おかげ様で体は丈夫、皆様にもお薦めしたいと思っております。残暑の折、皆様には充分体に気をつけて下さいますよう。

地区長就任にあたり雑感

大船地区長 木村松岳

この度地区長という大役に選任されました。浅学非才の私に、無事任務の遂行が出来るか、十分に職責を果せるか危惧しておりますが、私なりにベストを尽くして頑張りたいと思っております。先輩の地区長さんはいずれも人間的に立派な方々ばかり。当分の間は皆様にご迷惑をおかけするかと思いますが、一日も早く地区長の仕事に慣れるよう努力したいと思っております。よろしくお願いいたします。

昭和四十八年、下條先生のもと、逗子より三井先生の出張教授を受け今日まで参りました。その間もろもろの役職をも持っていたので、よくぞここまで詩吟が続けられたものかと、感心しています。

三井先生の教え上手、又煽(煽)て上手(怒られるかも)により、趣味で始めた習い事が、五十六年準師範、そして今回地区長：という事で負担を感じています。

人間誰しも全力で打込む趣味等々がなければ、早く惚けるとか申します。今回常任理事を退任された先生方は、いづれも75才以上とか：いづれは新旧交代の時が来るか

とは思いますが、私としては誠に残念に思えてなりません。先生方には今後共に健康に留意されて、私達の為に頑張ってください。体力の衰えのほかは、頭脳の方はいささかの衰えもなく、常任理事の座からおりられた事は寂しさがあるのではないかと思えます。私感ですが、詩吟というのは、どこまでいっても趣味である（心身の鍛練・社会に奉仕とか）と思います。高令になつたらその下で補佐すればよいのですから一考をお願いします。

昨今わが頌心会は、会員減少気味、選任された以上は全力で、会員の拡大、その他諸々の行事等はヤルッキヤない。とにもかくにも来る十一月の大船地区の温習会を盛功裡に終了するよう頑張ります。

記録的な暑さ、折角健康に留意して吟道に精励して下さい。

副部長と共に任務遂行

会計監査 鈴木孝岳

今年の夏は近年にない暑い日が続きましたが、このところ大分涼ぎやすくなり、夜は虫の鳴き声に秋の気配を感じ、ホッとしております。

この度は、会計監査をお受けしたものの

私の様な者に、井沢先生の後任が務まりますか不安で、身のひきしまる思いでございます。今日まで役員の方にはお世話になるばかりで、感謝しております。副部長の鈴木孝岳先生にも支えて頂き乍ら、任期までよろしくお願い申し上げます。

◎ 行 事 予 定

第97回全国大会参加県本部吟行会

とき・10月7日(日)～9日(火)

ところ・富士急ハイランド・黒部ダム他

第46回県本部吟道大会

とき・10月21日(日)

ところ・海老名文化会館

第24回葉山町文化祭詩吟詩舞の会

とき・10月21日(日)10時～4時

ところ・葉山町福祉文化会館

県本部主催

指導者吟道講座開かる

堀内支部A 佐久間爽岳

去る8月19日(日)、三浦半島の先端、小原台の防衛大学校中講堂に於て、平成二年度の吟道講座が開かれました。炎暑の坂を登ってゆくと海が展げて見え、常緑樹に囲まれた校舎は蟬しぐれの中でありました。午前9時25分開校、新田岳悠県本部長は

「二十一世紀に向けて、老化現象を起さぬ吟道であるように」と挨拶されました。

第一時限は、橘川岳珍先生の指導による漢詩「老泣」と「赤壁」でした。素読の大切さについて、話をする言葉の節調と同じに吟じるように、それには素読を何回もすることが要点であると結ばれました。

次は、安孫子岳晴先生による短歌、石川啄木の「こたま」と香川景樹の「花すゝき」でした。安孫子先生は「宮本武蔵の書いた『五輪の書』の中に、すべては鍛練と言われているが、指導者は、人の知らない苦労や忍耐、教養が大切」と話されました。

第三時限は、覚張先生が「慈烏夜啼く」を哀感切々と吟じられました。吟符についても説明があり、耳新らしい一節を覚えしました。

第四時限は、詩人萩原朔太郎の「昨日にまさる恋しさの、湧きくるごとく嵩まるを……」の新体詩を草野岳樞先生が担当され、「皆さんも多分同じ思いの日があったでしょう」と情熱をこめて詠われました。それは大層むずかしい吟で、いつの日か「小諸なる古城のほとり」のように親しめる詩として吟じることが出来れば良いと思えます。第五時限は、松井岳洋先生の「春江花月の夜」で韻読について指導が行なわれまし

た。松井先生は昔、或る夜のこと、逗子浪子不動の岩場で「小楠公」の吟をけいこされていたその時、同じ岩場の上の方から、頼山陽の日本外史「楠公父子訣別」の吟が聞え、松井先生が思わずひきつけられたその声の主は、大野孤山先生であったという。漢詩作家であり、韻読も考案された大野先生と、詩吟によって松井先生が結ばれた経緯を、当日会場で語られました。のちに大野先生が作詩された「舟艇守の尺八」も一同で合吟し、雰囲気盛り上りました。当日受講した方は四百二十名。各先生の指導のもとに熱心に合吟し、メモを取り、緊張した夏の日、第六時限が終了した時は午後四時でした。

詩吟のむずかしさ

大船A 山口夕岳

私は横浜漢詩会なるものに入会して、月二回勉強しております。私の様な無学の者に、果して理解できるかしらと懸念がありました。日を経るにつれ、本当にむずかしいと、痛切に感じています。

会員は女性が多く、入会の動機は、ほとんどの人が詩吟を習っているけど、漢詩の

意味がわからないからと云う人、次に書を習っても読めないのが多いので、少しでも読める様にと云う人達です。今は唐詩選を勉強していますが、講義の途中、ひと息つく意味もあります。詩吟を二、三名吟じる事になります。いろいろの流派の人、吟歴もいろいろです。オヤ？と思う吟法もあり、これでいいのかなと、首をかしげる時もあります。

先生は立派な方なので、私などは大学生の中の幼稚園生位しか分かりません。でも、今迄漠然と聞き流していた詩の意味を知った時などは、良かったと思ひ、辞書を引く楽しみも覚えました。

作詩は大変ですが、先生が直して下さるので、時には詩語表と首っ引きで、詩人を取りでいる時もあります。俳句のように、頭の中で五・七・五に組立てるわけにもゆかず、きまりの難しさに頭を抱えています。が、傾心にのせられるような漢詩が作れたらと、夢の様な事を考えています。

ちよつと一言

この感想文を書くまえに、頭のなかを整理しておかなければならないことは、傾心会は、総本部・県本部という上部団体の下に位置している団体である……と言うことだ。

総本部では「教本どおりにやれ」と厳しく言い、県本部では「県で統一したものでよろしかろう」と言い、傾心会では、一部「傾心会独自のものを」を吹き込む。一番困るのは、会員と直接接触している指導者ではないだろうか。

何故かという、吟法の質問の答弁に必ずと言ってよい程、三本の道が出てくる。その三本の道のどれを歩むか、講習会のあとで疑問としてくる。

統一出来ないところに何かある……それは、年功というか、年輪というか、そうした立場の自己独尊の固まりが、吟法をかきまわしていると思えてならない。こう考えるのは私一人であろうか。

指導者講習会のあとでこうした疑問点が生まれて、迷うことが重なれば、吟法ばかりでなく、人柄に至って来て、諸先生？方の人格に傷がつくものと考えられる。吟の統一どころではなく、団体の組織にひびが入るのでは……と、鈍脳で考えてもみる。老婆心ならいいけれど……。

私がお脳が弱いので、なるべく疑問を持たないで、あまり神経質にならないために出来ることなら講習会をなるべく速慮したいと思っています。ほつぽつと気長に楽しみたいと思っています。(匿名希望)

練吟
メモ 断腸

○初心の方々を念頭においての記事であるので、今更と思う方は、この欄は外していただきたい。さて、「九月十日」の承句

秋思の詩篇独り断腸

右の句のうち「独り断腸」の解釈はむかしから二通りある。一つは、教本の「通釈」(その時「秋思」という題でお作り申し上げた詩が、思いがけずおほめをいただきましたが、それもいま思ふと悲しみにうちひしがれる思いがいたします)(傍点筆者)で、九州太宰府での一年前の回想詩ということ。も一つの解釈は(清涼殿で「秋思」という勅題を賜り、諸臣それぞれに詩を作ったが、妙に自分の詩だけが悲しみに満ちたものとなってしまった)というのであり漢詩の作法(起承)からすれば、後者の方が正しいとする学者が多いようである。○語釈のうち留意したいのは「断腸」で、直訳は(はらわたがちぎれるようなかなしみ)となるが、これはむしろ中国人好みの表現。前述教本などの解釈のように(はなはだしく悲しみ苦しむこと、また、そのよるを悲しみや苦しむ)(大辞林)が適切なようである。因みに、村上仙山の「壇の浦

を過ぐ」の結句「春風腸断御裳川」なども

「腸は断つ」より「腸は断ゆ」と訓んだ方がびつたりする。「断腸花」は、俳句の季語(しゅうかいどう)の異名だが、(むかし女あり、愛人が待てど暮せど来ない。涙が地に落ちて花が咲いた。色は美婦の如くなまめかしいので断腸花と名づく)という伝説がある。はらわたとは結びつかない。

○中国の「世説新語」に「晋の武将桓温が舟で三峡を渡ったとき、従者が猿の子を捕らえて舟にのせた。母猿が悲しい泣き声をたてながら岸沿いにどこまでも追ってきてついに舟に飛び移ることができたがもたえ死んだ。その腹をさいてみると腸がずたずたであった」というのが「断腸」の故事、(大辞林)。も一つ「搜神後記」にも同じような伝説がある。(昔ある狩人が山の奥から猿の子を生け捕りにしてきた。それを庭の木に縛っておいた。すると猿の母親があとを追ってきて、子供を助けてくれと手まねでしきりに頼む。しかしその狩人はともむごい男で、母猿の切なる願いをはねつけて猿の子を殺した。母猿は悲しい声で泣いていたが頭を地面にぶつけて死んでしまった。狩人が死んだ母猿を開腹してみる。腸がずたずたに断ち切れていた)という。この話、記憶にとめておいていい。

俳句

岩崎恵岳

向日葵の背に海がある港町

蓮の葉の狂わんばかり風灼けて

白井寿岳

朝歩き無縁の墓の曼珠沙華

詩意を汲み齡を離る秋灯下

南部政岳

年経るも風鈴音を忘れざる

万緑裡弥陀のみ胸の豊かなる

山口夕岳

青りんご八ッ岳雲の流れ急

河童橋人波ゆれし霧の中

(移籍)

26 齊田俊岳 大船Bより大船Aへ

47 加藤奨岳 大船Bより大船Aへ

326 加藤玲山 大船Bより大船Aへ

(入会)

579 矢野花代 葉山町一色五四六一八

(一色A) (電)〇四六八一七六一二五二三

580 安元明子 葉山町堀内一四三五

(堀内・E) (電)〇四六八一七五一一二五二四

581 碓井祐山(再) 葉山町長柄一二八九

(長柄) (電)〇四六八一七五一一三〇五七

(退会)

407 加藤力泉(大船B) 565 池田喜一郎(風早)